

オーディオ実験室収載

Nordost CD の TRACK11～TRACK13 試聴および関連試聴結果(7)

1. はじめに

前報(6)では画像から判断される音源の位置関係と試聴した定位との関係を調べましたが、視聴時の画像による先入観がもたらされる可能性がありますので、録音により音声だけを取り出して試聴します。

2. DVD の視聴方法

収録場所に音源の高低差のある DVD を選択し、PANASONIC DMR-UBZ1 で再生し、Sonica DAC に S/PDIF 入力し、DA-3000 で 5.6MHzDSD に録音します。この録音音源を PC にコピーし、PC の TEAC Hi-Res Editor で再生して Sonica DAC に USB 入力します。

3. DVD1 録音音源の試聴

前報(6)のクリスマスオラトリオと下記の録音音源を試聴します。

A : テノール

B : アルト

エヴァンゲリスト (福音史家) のテノールは、右前方上の説教壇から歌っており、右スピーカーのすぐ左側上部付近から聴こえます。アルトは中央正面付近から聴こえます。

しかしながら、頭を動かすと音の方向も微妙に変化するので、正面を向いて集中して聴くことが必要です。

4. DVD2 の録音音源の試聴

バッハ カンタータ 179

A : テノール

バッハ カンタータ 199

B : ソプラノ

エヴァンゲリスト (福音史家) のテノールとソプラノは、左前方上の説教壇から歌っており、左スピーカーの上部付近から聴こえます。ソプラノは、伴奏のコントラバスと比べても高い位置に聴こえます。

しかしながら、頭を動かすと音の方向も微妙に変化するので、正面を向いて集中して聴くことが必要です。

5. DVD3 の録音音源の試聴

メンデルスゾーン Elias より

A : ソプラノ

B : 合唱

ソプラノのソロは右の少し高い位置ですが、左スピーカーのハイルドライバーあたりに聴こえ、それほど高さは感じられません。DVD1 のテノール、DVD2 のテノールとソプラノより低い位置に感じられます。

合唱陣は、オーケストラ後方の高い段に位置しています。左のソプラノのグループや右のアルトのグループは、ときたま高さを感じられるときもあります。

6. DVD4 の視聴録音音源の試聴

A : バッハ トッカータとフーガ

クインテセンサキシフォンクインテット

B : バッハ トッカータとフーガ

ジャーマンブラス

クインテセンサキシフォンクインテットによるステージでの演奏とジャーマンブラスによる高所のバルコニーの演奏を比べて見ました。サキシフォンクインテットは正面の左から右へ5人の奏者がならにます。ジャーマンブラスのバルコニーの演奏は、特段に高所からの演奏という感じはしません。マイクセッティングは画面からは伺うことはできません。

7. まとめ

DVD 視聴の前報(6)と同様、DSD 録音でも、教会収録における説教壇からの歌唱など、上方向での定位が確認できるものがありました。しかしながら、頭を動かすと音の方向も微妙に変化するので、正面を向いて集中して聴くことが必要です。

画面では、実音源が高所であっても、収録マイクの位置によっては、収録音源の上下関係が、実音源の位置に見合うものでない場合があります。

以上